

核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）地元検討会 議事概要

令和5年1月16日

■地元検討会の設立について

○圏央道と外環道間の東西方向の連携を強化する観点から、埼玉新都心線～東北道間を優先し、概略計画の検討（計画段階評価を含む）を進めることを目的に地元検討会を設立。なお、周辺道路管理者として、東日本高速道路（株）、首都高速道路（株）もオブザーバーとして参加。

■地域特性、交通課題について

○圏央道以南地域は外環道（三郷南～高谷）開通後も、自動車専用道路、一般道の旅行速度の低下や渋滞損失が発生している。

○圏央道以南地域は主要な国道沿線で大規模な物流施設の新規立地が増加傾向であり、区画整理事業や団地建替事業などの住居系の開発が行われるなど、更なる交通需要が見込まれる。

○見沼田圃・見沼田圃周辺の斜面林は、首都近郊に残された数少ない大規模な緑地空間であり、市民団体等が運営主体となり、様々な活動が行われていることから、これらの自然環境の保全・創造に配慮する必要がある。

■核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）地元検討会のとりまとめについて

○核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）の必要性・整備効果について、対象地域周辺の地域特性、交通課題等を沿線地域住民等に情報提供するとともに、対象地域で感じている交通課題や道路整備への要望等を把握すること。

○沿線地域住民等への意見聴取を実施する際には、見沼田圃を始め生活環境、自然環境、歴史・文化資源等に考慮し、ホームページや、オープンハウス、ワークショップ等、様々な方法を活用して丁寧に情報を把握すること。

■主な意見

○地下鉄7号線の延伸計画や中間駅周辺のまちづくり方針と調整を図りながら検討を進めること。

○ルート・構造の検討にあたっては、見沼田圃や斜面林に生息する貴重な動植物の生息環境に配慮するため、文献調査や関係機関からの情報収集を行うこと。

○見沼田圃は多くの団体が農業、景観、環境について活動を行っていることから、そのような活動や地元の意向に配慮し、より丁寧な情報提供や情報把握に努めること。